



長門の話題 Topics

「協力宣隊 H e T e（へて）カラー」が初任務

長門の活性化、魅力を発信

7月25日(金)、伊上海浜公園オートキャンプ場の海岸で、協力宣隊 H e T e（へて）カラーが初任務を果たしました。
7月1日(火)に3人目の長門市地域おこし協力隊が誕生したことを契機に結成された「協力宣隊 H e T e カラー」は、「それから」を意味する

長門市の方言「へてから」に、「カラー（色）」を組み合わせたもので、隊員独自の色を融合しながら、長門市の「これから」を創造したいという想いが込められています。

この日が初任務となったシーカヤック体験では、福島県いわき市の小学生3人と地元小学生の交流会をサポートしました。

初めて H e T e カラーとしてのコスチュームを身にまとい登場した3人は、子どもたちから驚きの目で迎えられました。シーカヤックセンターのインストラクターの指導の下、小学生と一緒にシーカヤックに挑戦し、500m先の島までパドルを漕いで、安全に子どもたちを導きました。

3人の隊員は、「今後もイベントなどのサポートに協力し、長門市の活性化、PRに取り組んでいきたい」と話しました。



▲福島県の小学生3人と交流する「Hete カラー」の隊員

第2回食のワークショップ

見て、作って、食べて再認識

7月27日(日)、三隅保健センターで「第2回食のワークショップ」が開催されました。

豊富な食資源を有する長門市を全国に向けて発信しよう、ながと成長戦略検討会議の金丸弘美委員がプロデュース、料理研究家の馬場香織さんが約40種類のレシピを提案したもので、地元の女性団体

やNPOなど約30人が参加しました。

試食会に先立って大西市長は、「長門の食材を使った料理がこれように見事にできあがりしました。このレシピや経験を生かして、1日レストランや農家レストラン、漁家レストランなどの起業につなげてほしい」と話しました。



▲色とりどりの料理をお皿に取り分ける参加者



▲スイカのスムージーを作る馬場先生

長門市縁結び大使登録証の交付式

男女の出会いをサポート

8月11日(月)、市役所会議室で、長門市縁結び大使登録証の交付式が行われました。

長門市縁結び大使とは、独身男女の出会いなどをサポートすることを希望する、市内在住または市内に勤務する人で、市が登録するものです。この日は、登録を希望した

11人が出席し、大西市長から登録証を受けました。

縁結び大使は、これから地域の独身男女の引き合わせや出会い、結婚に関する悩み相談を受けたり、出会いイベントの紹介を行います。

なお、縁結び大使は、随時募集が行われています。



▲大西市長から登録証が手渡された

第49回交通安全子供自転車全国大会

向陽小が全国大会で7位入賞

8月6日(水)に東京で開催された交通安全子供自転車全国大会で、7位という好成績を収めた向陽小学校自転車クラブの選手4人が11日(月)、大西市長を表敬訪問しました。

大西市長は「この伝統を後輩にも受け継いでほしい」と選手を祝福しました。



第16回みすゞ七夕笹まつり

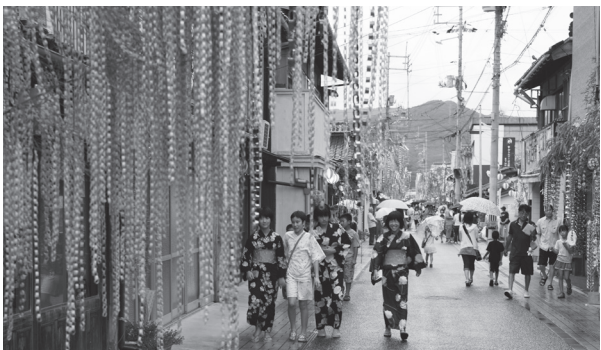
みすゞ通りを彩った笹飾り

8月2日(土)、仙崎のみすゞ通りを中心に、小雨の降る中、第16回みすゞ七夕笹まつりが開催されました。

オープニングでは、仙崎小学校のマーチングバンドがみすゞ通りを行進。通りの南北に設けられた会場では、和太鼓演奏やストリートダンスが

行われました。また、ステージでは、コーラスや仙崎小学校児童による鯨唄などが披露されました。

まつりの最後には、来場者による総踊りも行われ、みすゞ通りを彩る約200本の笹飾りを楽しみながら踊る人の姿が見られました。



湯免温泉まつり

さあ、輪になって踊ろう

8月2日(土)、湯免温泉まつりが湯免ふれあいセンター駐車場で行われました。

まつり会場では、フラダンスや和太鼓演奏、ブラスバンド演奏などが行われたほか、子どもを対象にした〇×クイズも行われ、会場は家族連れなどで賑わっていました。



思いやりの心を持って挑戦

8月9日(土)、ルネッサながとでスポ少祭りが開催されました。これは、市内のスポーツ少年団の団員が同じ種目を通してお互いの親睦を深めるとともに、体力づくりの機運を高め、団活動の健全育成を図ろうと毎年行われているものです。

この日行われた種目は、「むかでタイムレース・10」、「キャッチング・ザ・スティック」、「ロープ・ジャンピング・10」の3種目です。参加した団員たちは、日頃の練習で培ったチームワークを発揮して、それぞれの種目を楽しんでいました。



第44回油谷夏まつり
8月14日(木)、油谷総合運動公園で第44回油谷夏まつりが開催されました。これは、市内・県内の人はもちろん夏休みに帰省した人にも、故郷の良さを知ってもらいたい笑顔で楽しんでもらおうと、ながと大津商工会油谷支所の主催で毎年行われています。「楊貴妃花火ファンタジー」

は、「ほかとは違う花火」をテーマにハウステンボスなどで活躍中の花火ショープロデュースチームによる西日本唯一のエンターテインメントショーです。大音響の音楽とレーザー光線、そして炎と花火が会場を包み、訪れた人は幻想的で迫力のあるショーを楽しんでいました。

ラグビーチームが俵山スパスタジアムで合宿

キャンプ地招致の力となる

8月11日(月)、俵山のスパスタジアムで合宿練習中の、マツダブルーズ・マーズ(マツダ(株)ラグビー部)を大西市長が訪れ、選手を激励しました。マツダブルーズ・マーズは、トップキュウシュウAリーグに所属してトップリーグを目指しており、平成24年

からここ俵山で合宿をするようになりました。あいさつに立った大西市長は、「ラグビーワールドカップキャンプ地招致に向けて皆さんがここで合宿してくれることは大きな力となります。ぜひトップリーグに上がってください」と激励しました。



▲選手を歓迎する大西市長



▲夜空を彩った「楊貴妃花火ファンタジー」

レーザー光線と花火の競演

長門のPeople



須子 和夫 すこ かずお

昭和22年8月萩市生まれ。昭和56年より東深川江良区に在住。平成元年、班長となり初めて「赤崎神社楽踊」に携わる。平成4年、楽踊の主役である「胴取り」としてデビューし、平成10年までに4回奉納した。その後、胴取りの指導者、総指揮を経て平成23年から「江良楽踊保存会」会長に就任し、現在に至る。66歳。「赤崎神社楽踊」は、慶長元年(1596年)に牛馬の疫病を鎮めようと村人が農業と牛馬の守護神が祭られる赤崎神社に祈願したことからはじまったといわれている。楽踊には、「月の前の伶楽」と「虎の子渡し」がある。「月の前の伶楽」は、藤中楽踊保存会と江良楽踊保存会が赤崎神社において毎年交互に奉納を続けている。

楽踊とは、「人との和」。
江良楽踊保存会に携わって26年になる須子さんの言葉です。
今年10日の赤崎神社例祭において江良楽踊保存会が奉納する「月の前の伶楽」は、穏やかな中にも激しさがあり、ストーリー性のある繊細な動きが特徴です。
この伝統芸能は、江良区の子どもを中心に保存会や区の班長などたくさんの方が関わり、支えられています。普段、顔を合わせる機会の少ない区民が楽踊を通して地域の「和」を広げています。
地域とのつながりを重んじる須子さんは「道ですれ違った近所の子どもたちの顔が分らないというのは面白くない」と、子どもたちに楽踊を熱心に指導し、その成長を見守り続けています。「400年以上も前から続く伝統芸能がここ江良区にあり、この地域の将来を担う子どもたちと一緒に奉納できることは素晴らしいこと」だと胸を張ります。
地域の子どもやその親とのつながり。江良楽踊保存会のつながり。「人との和」を大切にすることでこの伝統は守られています。
赤崎神社楽踊では、今年も楽踊が奉納されます。